

中央区内景气动向调查

平成 27 年 4 月调查结果

平成 27 年 5 月 18 日

中央区

総 括

平成 27 年 4 月の動き

中央区内における 4 月の現状判断 D I は合計で 53.6 と、前回調査から 7.5 ポイント上昇している。景気の先行き判断 D I は合計で 59.2 と前回調査から 6.4 ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I (合計)

(D I)	平成26年	平成27年		前回調査
合計	12月	2月	4月	からの変化
現状判断 D I	44.1	46.1	53.6	(7.5)
先行き判断 D I	44.7	52.8	59.2	(6.4)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 27 年 4 月調査の調査票発送は 4 月 8 日（水）、回答期限は 4 月 16 日（木）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 49 名、有効回答率は 98.0%であった。

7 DI の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で53.6と、前回調査から7.5ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは57.3と、前回調査から15.6ポイント上昇し、企業動向関連DIは50.0と、横ばいとなっている。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が8.7ポイント増加し、「悪くなっている」と回答した人の割合が6.9ポイント減少した。

図表1 - 1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

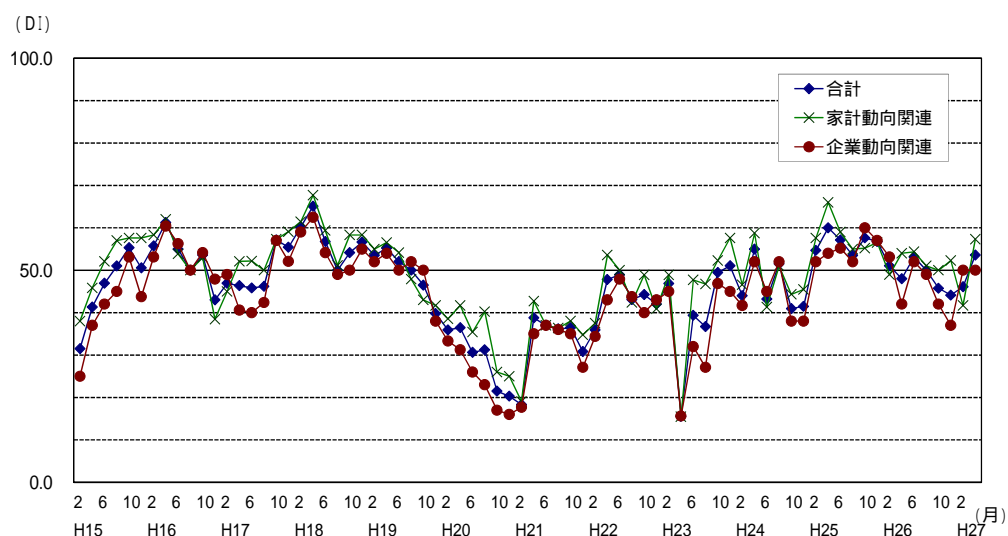
(DI)	平成26年		平成27年		(変化幅)
		12月	2月	4月	
合計		44.1	46.1	53.6	(7.5)
家計動向関連		52.3	41.7	57.3	(15.6)
小売関連		43.2	38.6	52.1	(13.5)
飲食関連		-	-	-	(-)
サービス関連		64.3	40.0	67.9	(27.9)
住宅関連		-	-	-	(-)
企業動向関連		37.0	50.0	50.0	(0.0)
製造業		32.1	42.9	50.0	(7.1)
非製造業		38.9	52.9	50.0	(-2.9)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1 - 2 構成比

年	月	構成比				
		良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成26年	12	0.0%	21.3%	40.4%	31.9%	6.4%
平成27年	2	0.0%	17.8%	57.8%	15.6%	8.9%
	4	2.0%	26.5%	57.1%	12.2%	2.0%
(変化幅)		(2.0)	(8.7)	(-0.7)	(-3.4)	(-6.9)

図表1 - 3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で 59.2 と前回調査から 6.4 ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連D Iは 64.6 と、前回調査から 7.5 ポイント上昇し、企業動向関連D Iは 54.0 と、前回調査から 5.0 ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなる」と回答した人の割合が 7.8 ポイント増加し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が 5.6 ポイント減少した。

図表 2 - 1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

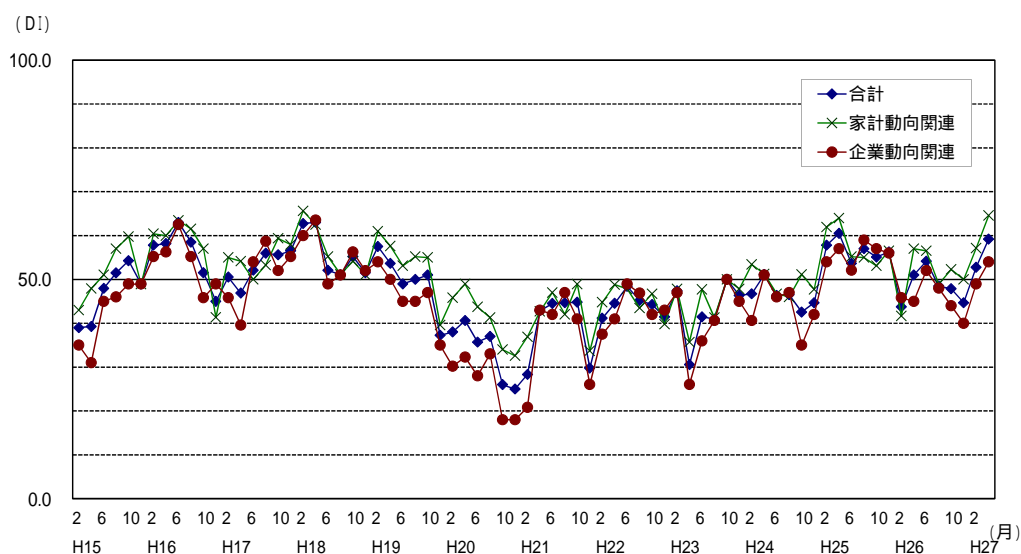
(D I)	平成26年		平成27年		(変化幅)
		12月	2月	4月	
合計		44.7	52.8	59.2	(6.4)
家計動向関連		50.0	57.1	64.6	(7.5)
小売関連		40.9	52.3	62.5	(10.2)
飲食関連		-	-	-	(-)
サービス関連		64.3	70.0	67.9	(-2.1)
住宅関連		-	-	-	(-)
企業動向関連		40.0	49.0	54.0	(5.0)
製造業		39.3	46.4	39.3	(-7.1)
非製造業		40.3	50.0	59.7	(9.7)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成26年	12	0.0%	21.3%	44.7%	25.5%	8.5%
平成27年	2	4.4%	28.9%	44.4%	17.8%	4.4%
	4	8.2%	36.7%	40.8%	12.2%	2.0%
(変化幅)		(3.8)	(7.8)	(-3.6)	(-5.6)	(-2.4)

図表 2 - 3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

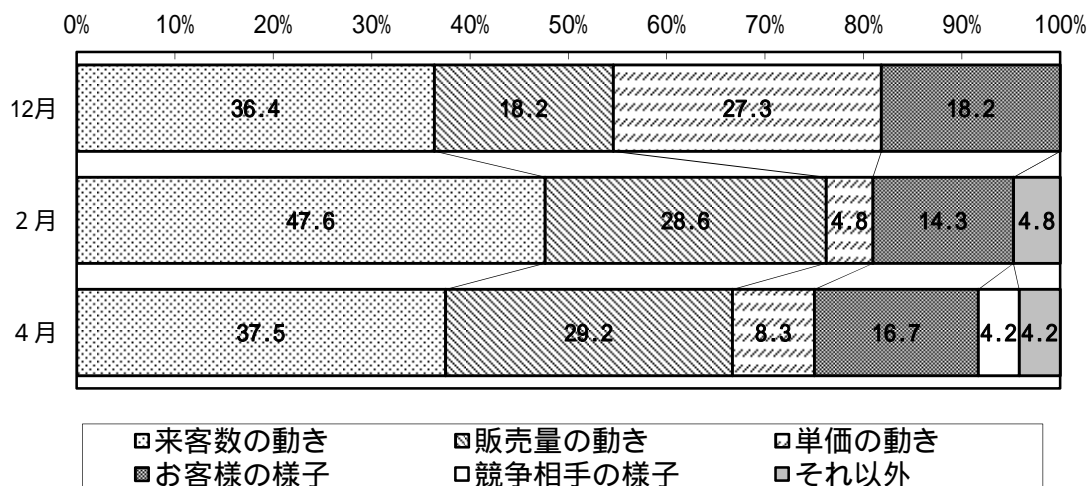
(D I)	平成26年	平成27年		
		12月	2月	4月
合計	42.0	40.0		52.0
家計動向関連	46.6	40.5		56.3
小売関連	34.1	40.9		56.3
飲食関連	-	-		-
サービス関連	67.9	40.0		64.3
住宅関連	-	-		-
企業動向関連	38.0	39.6		48.0
製造業	32.1	28.6		53.6
非製造業	40.3	44.1		45.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

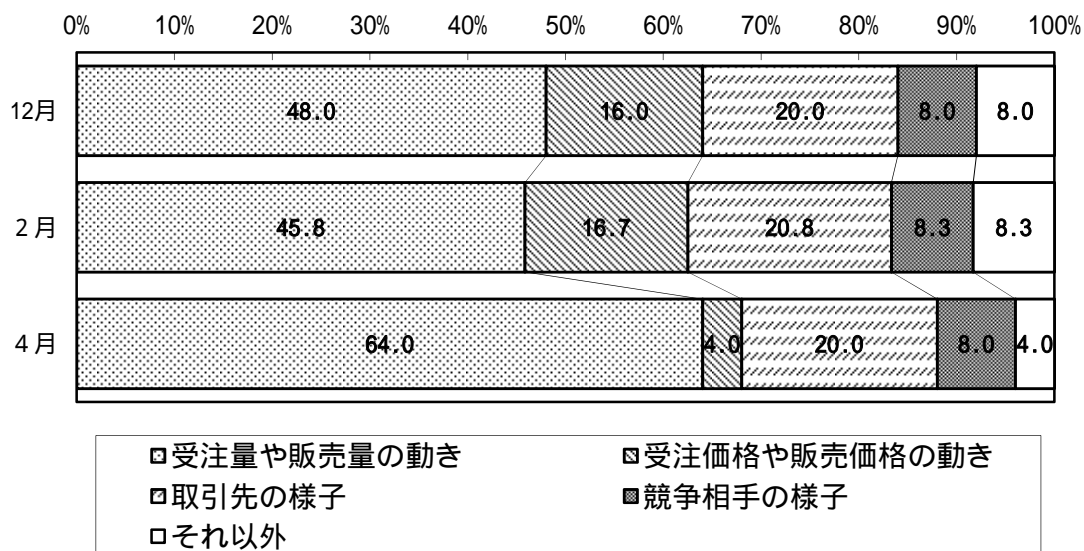
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数の増加と客単価の上昇が相まって良い結果を出している。	
		やや良く なっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	お客様の様子	・来客数はそれほど変化はないが、買上率が上がっている。
			百貨店(総務担当)	それ以外	・訪日外国人の買物は、中国の旧正月以降も衰えることなく増加している。日本国内の客の動き、様子も徐々に回復していることがうかがえる。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・前年の消費税増税前後、加えて前々年との比較などから順調に推移している。	
		高級レストラン(経営者)	お客様の様子	・年度内の予算の消化で3月までは好景気をもたらしていたこともあり、繁忙期の年度末を過ぎて一服状態に入った感がある。今後は株価の動向に歩調を合わせてくる需要に対応していきたい。	
	変わらない	都市型ホテル(広報担当)	来客数の動き	・宿泊の稼働率は上昇しており、特に、外国人の宿泊者数が増加している。	
		一般小売店〔食品〕(店長)	販売量の動き	・消費税増税による消費の低迷が、多少和らいできた傾向が感じられる。	
			スーパー(店長代行)	来客数の動き	・今月は前年が消費税増税後のため売上は前年を超えているが、来客数は売上ほどの変化がみられない。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・前月に比べて大きく変化はしていないが、買上点数は微増している。単価は変化していない。	
		衣料品専門店(店長)	競争相手の様子	・当店は外国人観光客が倍になり、その分の来客数、売上は伸びているが、取引先及び他店の様子は現状維持が精一杯のようである。	
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・2～3月は前年と比べると客が多く来店している。外国人、特に、中国人の客が多くなっている。春休みになってから観光客も多く来店している。	
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・客の移動の時期も終わり、2～3か月前と比べて販売数は伸びていない。	
		その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・常連客がほとんどなので、月が変わっても変化がない。同じメンバーで今後も続くと思う。	
	やや悪く なっている	一般小売店〔和菓子〕(経営者)	お客様の様子	・個人の用途がほとんどない。領収証も大企業の名前ばかりになっている。	
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・今月の来客数は前年比で約90%であり、3か月前よりも悪くなっている。買上客数だけではなく、来客数も減ってきている。	
悪く なっている	-	-	-	-	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	出版業(経営者)	それ以外	・景気が悪いと合言葉のように話すやりとりを耳にしなくなってきた。	
		建設業(営業担当)	競争相手の様子	・競争相手も人手不足で仕事に支障が多少出ている。	
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・前年同月に比べて売上高がやや良くなっている。	
	変わらない	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・少しずつ受注量が増加してきており、上向きの感覚である。	
		新聞業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・広告出稿の動きに、回復の兆しがほとんど見られない。ただし、短期雇用の契約スタッフの求人などは、条件を良くしないとほとんど応募がなく、採用募集が続いている。景気が上向いているとも言えるかもしれない。	
		新聞業(経営者)	受注量や販売量の動き	・4月第1週はイースター休暇にあたり欧米からの観光客が多く、また、中国の連休とも重なったため、売上が良い。	
		印刷業・製本業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・年度末の駆け込み需要は前年の消費税増税時と比較して今年の方が忙しかったが、4月の落ちこみは前年以上なのでプラスマイナスゼロである。	
印刷業・製本業(営業担当)	競争相手の様子	・相変わらずダンピングをしている業者が、地方から上京しているようである。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		卸売業〔機械器具〕（経営者） 経営コンサルタント	受注量や販売量の動き 取引先の様子	・報道機関では上向きとのことだが、実際のところ特段の変化はみられない。 ・当地区内でも店舗の立地によって集客力の格差がある。外国人が多い地区の店舗はすば抜けて良いようだが、他地区は変わらずという取引先が多い。
	やや悪くなっている	出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・大企業は春闘で盛り上がり、株価上昇も続いているが、世間一般では4月から各食品の値上がりが相次ぎ、生活必需品以外での支出を抑える傾向にあり、本の売上は相変わらず上がらない。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度末が終わり、受注の動きが止まっている。年度越しの受注残がほとんどない状態なので、今月はあまり良くない。
	悪くなっている			

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（総務担当）	・ゴールデンウィーク等のオケージョンを利用して、今後も国内外の客の買物は良い方向に向かう。
		都市型ホテル（広報担当）	・外国人観光客が増えているので景気も良くなる。その一方、日本人の利用客が減少しているため、ゴールデンウィーク期間の利用促進に期待している。
		都市型ホテル（経営）	・東京オリンピックまでは現在の状況が続く。
	やや良くなる	一般小売店〔文具〕（販売担当）	・当地域は外国人観光客の増加が今後も見込める。質が良く、高額品を含む良い物を購入する客が増加傾向にある。
		一般小売店〔靴〕（店長）	・株価が上がリ、大手の業績が上がっている。
		百貨店（総務担当）	・免税品の販売は引き続き好調で売上を伸ばしている。
		百貨店（広報担当）	・株高等で富裕層における高額品の販売動向は堅調である。中間層の消費に力強さが無いが、ベースアップ等の実質所得増加に期待している。
		スーパー（店長代行）	・4月より給料が上がる企業もあり、期待も込めてやや良くなる。
		スーパー（店長）	・都市開発が進み、人口増加が期待できる。
		高級レストラン（副店長）	・予約状況が前年より良い。
		一般レストラン（経営者）	・4～6月は修学旅行生が来店してくれることと、ゴールデンウィークで観光客が来店してくれるので毎年忙しくなる。
		通信会社（営業担当）	・株価上昇が継続すると思われるため、やや良くなる。
		設計事務所（所長）	・企業の回復により設備投資などが増加し、景気がやや良くなる。
	変わらない	一般小売店〔食品〕（店長）	・当地区の再開発に伴う歩道の修理が終わり、多少客が通りやすくなった。
		衣料品専門店（店長）	・良くなる要素も悪くなる要素もない。頑張れば現状維持できそうである。
		高級レストラン（経営者）	・長期的にはオリンピックまでは好況が続く。特に、建設、IT方面での接待客の増加が考えられる。短期での2～3か月先は花見シーズンも終了し、ゴールデンウィークの影響を考えれば、都心のビジネス系の来客数は減る。
		一般レストラン（経営者）	・来客数は多いが、そのほとんどが無駄な買物、飲食をしない状況が今後も続く。
		旅行代理店（支店長）	・良くなる要素がない。
		通信会社（営業担当）	・販売数の急な伸びは見込めないため、現状維持が精一杯である。
競馬場（職員）		・全体的な販売動向は変わっていない。	
やや悪くなる	百貨店（業務推進担当）	・衣料品は冬物より夏物の方が単価が低いので、売上の的には落ちる。	
	悪くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者） ・内閣府の調査では景気が悪くなっていると回答している割合が増加しており、株価も官製パブルの様を呈しているため不気味で仕方がない。また、普天間問題で揺れている間に消費税10%への増税とマイナンバー制度がいつのまにか決まっていたことを周囲で知っていた人がほとんどおらず、政治に対する不信も客の口から出るようになってきている。	
企業 動向 関連	良くなる	卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・秋物の受注が始まるので期待している。
	やや良くなる	輸送業（従業員）	・受注による売上がやや良くなってきている。
		通信業（営業担当）	・春闘で給与増が実現され、全般に景気回復への期待が高まってきている。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・期初の資金が動きはじめる時期で、売買量が比較的多いと感じている。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・2～3か月先の受注及び商談は出てきている。徐々に受注量が増えてくる。
		経営コンサルタント	・ガソリン価格も落ち着き、通行量が若干ではあるが増加傾向にある。物流が良くなれば景気は上向きに変わってくる。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・景気が悪くなっている企業とほぼ変化のない企業とのバランスを考えてやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	新聞業（営業担当）	・好転する要素は正直あまりないが、期待を含めて変わらない。
		出版業（経営者）	・良い材料があるわけではない。
		印刷業・製本業（営業担当）	・当業種をはじめ中小企業までなかなか回ってこないのが実状である。
		印刷業・製本業（経営者）	・仕入価格の上昇など、良くなる要素がない。
		建設業（営業担当）	・現状維持が続き、変化はない。
		建設業（営業担当）	・新年度の発注がまだ少ない。
		通信業（営業担当）	・日々の仕事から様々な業種の企業へ訪問しているが、報道されているように景気上昇のムードはほとんどない。大半の企業ではコスト削減が最優先になっているのを強く感じる。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・各企業の今期予算を見ると、投資に関しては極めて慎重な印象を受けている。
		卸売業〔飲食品（鮮魚）〕（経営者）	・当地域への来客は今はピークで、人通りも限界まできている。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・特に変化の様子がない。
	やや悪くなる	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・プラス転換する要素が具体的にない。
		新聞業（経営者）	・外国人観光客、特に、中国人の爆買いが売上に影響してくるので、夏休みなどのシーズン以外はあまり見込めない。
		出版業（営業担当）	・新年度になって雑誌広告が減ってきている。本の売上が厳しいところに広告収入の減少で、出版社にとって明るい材料がない。
		印刷業・製本業（営業担当）	・年度末が終わり、下降していく。物件の見込みも少ないので悪くなるのではないか。
	悪くなる	卸売業〔機械器具〕（従業員）	・まだ期初であるが、今期の受注予測は先期より厳しい見通しである。
		-	-

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連	小売関連	13
	商店街・一般小売店	4
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	4
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	1
	設計事務所所長・職員	1
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
	企業動向関連	25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
製造業経営者・従業員	7	
食品製造業	0	
繊維工業	0	
家具及び木材木製品製造業	0	
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	
出版・印刷・同関連産業	7	
新聞業	2	
出版業	2	
印刷業・製本業	3	
その他出版・印刷・同関連産業	0	
化学工業	0	
石油製品・石炭製品製造業	0	
プラスチック製品製造業	0	
窯業・土石製品製造業	0	
鉄鋼業	0	
非鉄金属製造業	0	
金属製品製造業	0	
一般機械器具製造業	0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0	
輸送用機械器具製造業	0	
その他製造業	0	
非製造業経営者・従業員	18	
建設業	3	
輸送業	1	
通信業	2	
金融業	2	
不動産業	0	
卸売業	6	
繊維・衣服等	2	
飲食品	1	
建築材料・鉱物・金属材料等	0	
機械器具	3	
その他卸売業	0	
サービス業	4	
広告代理店・新聞販売店[広告]	0	
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1	
コピーサービス業	0	
その他サービス業	3	
その他非製造業	0	
その他企業の動向を把握できる者	0	